子ども食堂

皆が笑顔で楽しめる場に
青森で開設セミナー

子どもに無料か低額で食事を提供する「子ども食堂」の開設セミナーが16日、青森市のアピオあおもりで開かれ、参加した約130人が、子どもも大人も笑顔で食事を楽しめる場づくりの大切さを確認した。

セミナーは、県社会福祉協議会が、子ども食堂の本県での広がりと浸透を目的に初めて開催した。

全国の子ども食堂を調査・研究している八戸学院大学短期大学部の佐藤千恵子教授が、本県の子どもの貧困率が東北で一番高いことを説明。子どもの貧困は、孤食や欠食の原因となることや、学習意欲の低下、自信喪失、無気力など精神面でもマイナスの影響を与えることを指摘し、食の大切さを強調した。

2016年11月、同短大が八戸市で初めて開設した子ども食堂の様子を振り返り、利用者から寄せられた「談笑しながらの夕食はおいしい」との声を紹介しながら「みんなが笑顔で食事を取れる場が大切」と訴えた。さらに、子どもたちが調理に参加し、食の大切さを知る食育の場として子ども食堂を活用することを提案した。

「子どもの心身の成長のためにも、笑顔で食事を楽しめる場が必要」と語る佐藤教授＝16日、青森市

県こどもみらい課の最上和幸課長代理は、青森市でひとり親家庭の子の学習支援や子ども食堂運営に関わってきた経験から「子どもが安心して他人とつながることができる場が学習会や子ども食堂。子どもたちが、自分の存在を受け止めてもらえる場でもある」と語り、子どもの視線を大切にした地域づくりの重要性を強調した。

子ども食堂は、12年ごろから全国で開設され始め現在、全国に400～500カ所、本県では8カ所開設されている。以前は、貧困や孤独に悩む子どもの支援を目的にしていた食堂が多かったが、近年は、誰もが参加できるタイプが増えている。（菊谷賢）

「国税庁長官 辞任を」
市民団体が各地でデモ

2017年分所得税の確定申告が16日に始まったことを受け、森友学園問題を

名古屋国税局前にも市民ら約30人が集まった。庁舎に向かってマイクを握った元立教大大学院教授の池住義憲さん＝愛知県日進市＝は「虚偽の答弁をした佐川

強く求める」と訴えた。抗議活動は国税局がある札幌、金沢、各市でも行わ

災害や事件遺

正確・迅

内閣府や県警、県などの担当者によ

海上保安部の担当者や医師ら13人が出席。出席者によると、八木隆明・内閣府参事官補佐が、協議会設置の意義や目的、全国の設置状況などを説明した。県警捜査1課の山口慎治・検視官室長は取材に「大災害はいつ起きるか分からない。できるだけ早い時期に協議会を立ち上げたい」と話した。

県警によると、2016

37体だったことが16日、

は過去最高だった前年を0

震災関連

金井さん 初の船外作業
ロボ装

国際宇宙ステーションに滞在している宇宙飛行士の金井宣茂さん(41)が日本時間16日夜、宇宙空間に出て船外活動を実施した。金井さんにとって初の船外活動で、日本人飛行士では20

12年11月の星出彰彦さん(49)以来、4人目。

米国製の白い宇宙服に身を包み、米航空宇宙局（NASA）のマーク・バンデハイさん(51)と組んで、ロボットアームの装置の交換

で仕上げの

井さんは午

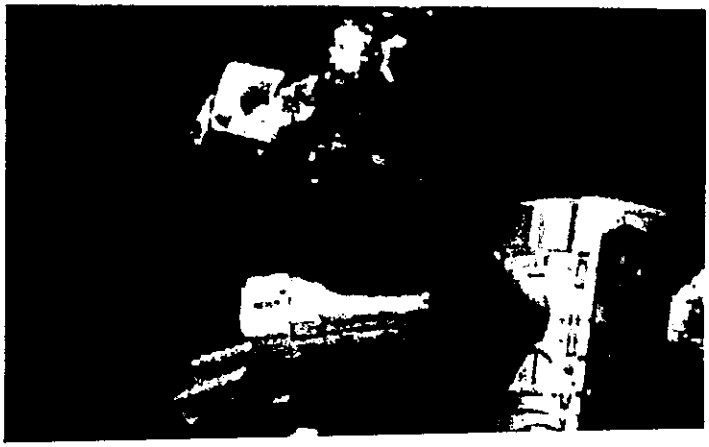
テーション

ックから外

につかまい

と移動。

などを慎重



井山が棋聖防衛

囲碁、全七冠堅持

8日には国

杯決勝3番勝

に1勝2敗で

「子ども食堂始めてみて」

佐藤教授（八学）（短大）呼び掛け

青森でセミナー

子ども食堂開設の経験を語る佐藤千恵子教授＝16日、青森市

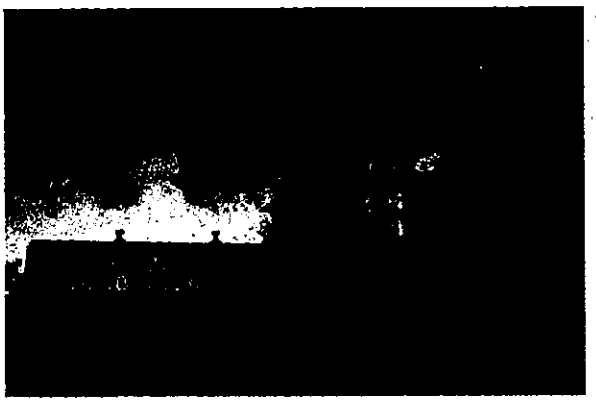
青森県社会福祉協議会（前田保会長）主催の「子ども食堂」開設セミナーが16日、青森市で開かれ、県南地方で初の子ども食堂を開いた八戸学院大短期大学部の佐藤千恵子教授が、開設を検討する参加者ら約120人を前に「地域に笑顔があふれる子ども食堂を始めてみませんか」と呼び掛けた。

子ども食堂は孤食や貧困対策などを狙いに、食事を無料または低料金で提供する場で、全国に300カ所以上あるという。コンセプトや活動内容は広がりを見せており、佐藤教授は「子ども食堂イコール生活困窮ではない。いろんなスタイルがある」と強調する。

佐藤教授は見た目では貧困が判断しにくい「相対的貧困」の状況を踏まえ、誰でも参加できることを重要視し、2016年11月、ゼミ活動の一環として市内に食堂を開いた。北奥羽地方には現在、四つの食堂がある。

県の食育に関する委託事業として、八戸市の「はっち」で実施した昨年7～12月の子ども食堂（計6回）では、延べ大人129人、子ども61人が参加。利用者アンケートでは「ゆっくり子どもと話しながら食事ができた」「味はもちろん、みんなと談笑することが重要」などの意見が寄せられたと報告した。

開設に向けたアドバイスとして▽個人でできなかったら他の人と協力する▽まずは地域の知り合いなど小規模でも始めてみる―などを挙げた。（田沢奈々）



工場の煙突から出る水蒸気をライトアップしたプロジェクト「虹色の狼煙」の様子＝2017年1月、八戸市

多様な魅力に着目

「八戸工場大学」ふるさとキラリ賞受賞

八戸市の工場とアートを組み合わせた市のプロジェクト「八戸工場大学」が、地域の活力を生み出す全国各地のイベントを表彰する「第22回ふるさとイベント大賞」（主催・地域活性化センター）で、選考委員会表彰に当たる「ふるさとキラリ賞」を受賞した。大学に見立てた活動内容や、地元の工場が持つ多様な魅力に着目し、理解や親しみを深めた点などが評価された。

市は2013年に工場大学を〝開学〟し、大学になぞらえた講義や課外活動、サークル活動を展開。17年1月には、工場の煙突から出る水蒸気をライトアップするアートプロジェクト「虹色の狼煙（のろし）」を実施した。

同賞は、各地域のイベントの発展と地域活性化を目指して1996年に創設された。今回は八戸工場大学など8件が各賞を受賞。内閣総理大臣賞に当たる大賞には、愛知県の「刈谷万燈祭」が輝いた。

表彰式は3月1日に東京都内で開かれる。（田中周菜）

インフル警報 青森県全域

県南地方の患者数は減少

青森県は16日、県内のインフルエンザ発生状況（5～11日）をまとめ、弘前保健所管内の注意報を警報に引き上げた。県内全域に警報が発令された一方、県全体では45・32人と前週の54・42人を下回った。

定点となっている1医療機関当たりの患者数は、保健所管内別にむつ（67・33人）、上十三（60・67人）、三戸地方・八戸市（40・00人）など5圏域で前週より減少したものの、警報発令基準（30・00人）を上回った。弘前は増加し32・33人となった。

簡易検査によるウイルスの検出状況では、B型（1

935人）のは、20

割を占

囲碁

勝負の

日、岩

れ、井

井囲

7

7手

段（20

し、

全七

第2

たれ

井

初の

おり

防衛

杯決

8

に1

内の

人戦